

第7回シシ垣サミット in 西海

—イノシシと私たちの過去・現在・未来—

〈趣旨〉

猪垣(ししがき)とは、猪や鹿などの食害から田畑を守るため築かれた石垣です。西彼杵半島は、昭和51年(1976)の長崎県教育委員会による調査でシシ垣が半島の山地をほぼ一周するように築かれたことが判明しています。この第7回シシ垣サミット in 西海は、先人が築いた農害対策遺構としてのシシ垣の価値を見直し、西海市や全国における獣害対策の取り組みを知ることを目的に開催するものです。

平成26年 **12月20日(土)**

13時00分～17時00分

西海橋物産館 魚魚の宿

(長崎県西海市西彼町小迎郷96-2)

◇ 参加費：無料(事前申込不要)

21日(日)にはシシ垣の現地見学があります(事前申し込みが必要です)

●プログラム(予定)

開会行事	13時00分～13時15分
基調講演 高橋 春成(奈良大学教授・シシ垣ネットワーク代表)	
シシ垣の価値と保存・活用に向けて	13時15分～13時45分
報告① 平田 滋樹(長崎県農林部農山村対策室)	
シシ垣今昔物語②—現代のシシ垣の現状—	13時45分～14時15分
報告② 北川 博正(福井県自然観察指導員の会)	14時15分～14時35分
多雪地におけるシシ垣遺構とイノシシの冬越し	
報告③ 宮城 邦昌(奥の猪垣研究会)	14時35分～14時55分
沖縄島北端奥の猪垣について	
報告④ シシ垣ネットワーク会員	
長崎県西海市旧西海町及び旧大瀬戸町における西彼杵半島シシ垣の現状—使用石材と遺存状況—	15時10分～15時30分
報告⑤ 佐竹 昭(広島大学)	
石見地域のシシ垣遺構をめぐって(仮題)	15時30分～15時50分
報告⑥ 花井 正光(NPO法人沖縄エコツーリズム推進協議会)	
地域遺産としてのシシ垣をどう活かすか	15時50分～16時10分
報告⑦ 柴田 昌児(愛媛大学)	
愛媛県南予地域のシシ垣(次年度開催地より)	16時10分～16時30分
質疑応答	16時30分～16時50分
閉会	

●主催 第7回シシ垣サミット in 西海実行委員会、シシ垣ネットワーク

●問い合わせ シシ垣ネットワーク会員 原口 聡(080-5240-4997)

第7回シシ垣サミット in 西海現地見学情報（12月21日）

西彼杵半島猪垣基点（県指定） 指定年月日：1968（昭和43）年4月23日

猪垣（ししがき）とは、猪や鹿などの食害から田畑を守るため築かれた石垣である。

文化財に指定されている玄武岩の基点石には「享保七〇寅年」（1文字は約10cm角。〇は剥げ落ちて解読できない部分）と2行にわたる刻字がある。『郷村記』の中浦村の猪垣についての記事を意識すると「外海の山に猪や鹿が繁殖して田畑の作物を荒らすので、村中の人々が協議して享保



7年（1722）6月から石垣を築いた。この工事が達成すると、荒れた野原で田畑が余る程、出来上がるはずで、中浦村から工事を始めたところ、順を追って太田和、七ツ釜、多以良、瀬戸でも同様に工事がなされた。」となる。享保7年（1722）に工事が始められたという内容は、基点石の刻字と一致する。

昭和51年（1976）の長崎県教育委員会による調査で猪垣は西彼杵半島の山地をほぼ一周するように築かれたことが判明している。猪垣の石材には、この基点石周辺では玄武岩（げんぷがん）が使用されているが、その他の所では結晶片岩（けっしょうへんがん）が主である。

ホゲット石鍋製作遺跡（国指定） 指定年月日：1981（昭和56）年9月8日

石鍋（いしなべ）とは、軟質で加工しやすく保温性に優れた鉱物である滑石（かっせき）を素材とした容器で、古代から中世にかけて煮炊きに使用された道具である。西彼杵半島を中心として製作された石鍋は、本州から南西諸島まで広範囲に流通したと考えられている。

西彼杵半島の山中には滑石の露頭（ろとう）が多く、現在70箇所を超える石鍋製作遺跡が確認されている。そのうち、最大規模のものがホゲット石鍋製作遺跡で、11を数える石鍋製作遺跡が集中し、第6石鍋製作



遺跡では、高さ約6m、幅約60mの滑石の壁面に、石鍋の製作途中のものや削り取った窪みが数多く見られ壮観である。なお、遺跡周辺には結晶片岩の猪垣を見学できる。

説明文は『西海市の文化財』（西海市教育委員会、2012年）より引用しました。